

Q1 使いやすい評価補助簿の形式にはどのようなものがあるか。

A 評価補助簿は学校が活用しやすいように創意工夫し、形式を統一するなどして作成して活用するものであるが、ここでは一つの例として、「単元の指導計画と評価計画」、及び「評価補助簿」を見開きで一体化した形式を紹介する。

○形式

- ・実際に活用しやすくするため、ここでは、下の図のように、左側のページに「単元の指導計画と評価計画」、右側のページに「評価補助簿」を配置した形式とした。
- ・この形式では、観点別評価を記入する際、観点別評価規準を視覚的に参照することが容易である。そのため、評価計画との整合性を考慮した評価を実践しやすい。
- ・評価補助簿は各学級の名簿等を活用し、使いやすい形式に作り直すことが考えられる。
- ・評価補助簿においては、表計算ソフトを活用することにより、単元の総括的評価、学期末・学年末総括的評価の計算作業の負担が軽減される。

<イメージ>

<単元の指導計画と評価計画>

教材名：「小さいを祝おう」（第4学年上 光村図書）

目標
 国語への関心・意欲・態度
 ・千歳を祝う発表会の計画の話し合いに喜んで参加したり、新進立てて自分の夢や願いを伝えるスピーチをしたり、中心に気を付けて友達のスピーチを聞いたりしようとする。
 話す・聞く能力
 ・自分の考えが分かるように筋道を立て、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話したり、話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができる。
 ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる。
 言語についての知識・理解・技能
 ・千歳を祝う発表会の計画を話し合ったり、自分の夢や願いをスピーチしたりする活動を通して、その場の状況や目的に応じた適切な言葉遣いや、丁寧な話し方、指示語や接続詞を適切に使ったりすることができる。
 ・話し合いのスピーチに必要な語句を増やし、語句の性質や役割が異なることを理解することができる。

時	おねい	主な学習活動・内容	評価の重点				おおむね満足できると判断される状況	十分満足できると判断される状況
			関	話	音	語		
1	これからの学習への見通しをもつ。	リード文を読み、扉の神や写真から「小さい」の今、これからについて考え、学習の見通しをもつ。	①				・積極的にこれからの学習に参加しようとしている。	・題材に興味をもったり、これまでの生活や学習を思い出したりしたことと自分から意見を述べ、これからの学習に意欲的に取り組むようになっている。
2	「小さいを祝おう」が実現したものの見通しをもつ。	「小さいを祝おう」を聞く計画を話し合う。 ・内容、展開などの役割を決める。 ・話し合うべき項目を出し合う。 ・項目ごとに順番に話し合っていく。	②	③			・話し合い積極的に参加しようとしている。 ・ルールを尊重して話したり、聞いたりしている。 ・共通点や相違点を考えながら話し合っている。 ・聞き手を考えながら、声の大きさ、速さを考えている。	・進行役、話し手、聞き手として、積極的に話し合っている。 ・話し合っている中、相手の発言を聞き取り、自分の発言を思い出し、自分から意見を述べ、これからの学習に意欲的に取り組むようになっている。

<評価補助簿>

単元名：○○

観点	関心・意欲・態度			話す・聞く能力			言語			特記事項					
	関①	関②	関③	表①	表②	表③	理①	理②	理③		言①	言②	言③		
時	1	2	7	10	評価	3	4	5	8	11	評価	6	9	12	
生徒A	3	3	3	3	A	2	3	3	3	3	A	3	3	3	A
生徒B	2	2	2	2	B	1	2	2	1	1	C	2	2	2	B
生徒C	3	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	3	2	B
生徒D	2	2	2	3	B	2	3	3	3	3	A	3	2	3	A
生徒E	3	2	2	2	B	3	2	2	3	2	B	2	2	2	B
生徒F	3	3	3	3	A	2	3	2	2	3	B	3	2	2	A
生徒G	3	3	3	3	A	3	3	2	3	3	A	3	2	3	A
生徒H	3	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	2	2	B
生徒I	3	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	2	2	B
生徒J	3	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	2	2	B
生徒K	2	2	2	2	B	2	2	2	3	3	A	2	2	2	B
生徒L	3	3	3	3	A	2	3	2	2	3	B	3	2	2	A
生徒M	3	3	3	3	A	2	3	2	2	3	B	3	2	2	A
生徒N	3	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	2	2	B
生徒O	3	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	2	2	B
生徒P	2	2	2	2	B	2	2	2	3	3	B	2	2	2	B
生徒Q	3	2	2	2	B	3	2	2	3	2	B	2	2	2	B
生徒R	3	3	3	3	A	2	3	2	2	3	B	3	2	2	A
生徒S	3	3	3	3	A	3	3	2	2	3	A	3	2	2	A

※A4版（縦）を見開きを使った形式

<単元の指導計画と評価計画>

教材名：「小さいを祝おう」（第4学年上 光村図書）

目標
 国語への関心・意欲・態度
 ・千歳を祝う発表会の計画の話し合いに喜んで参加したり、新進立てて自分の夢や願いを伝えるスピーチをしたり、中心に気を付けて友達のスピーチを聞いたりしようとする。
 話す・聞く能力
 ・自分の考えが分かるように筋道を立て、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話したり、話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができる。
 ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる。
 言語についての知識・理解・技能
 ・千歳を祝う発表会の計画を話し合ったり、自分の夢や願いをスピーチしたりする活動を通して、その場の状況や目的に応じた適切な言葉遣いや、丁寧な話し方、指示語や接続詞を適切に使ったりすることができる。
 ・話し合いのスピーチに必要な語句を増やし、語句の性質や役割が異なることを理解することができる。

時	おねい	主な学習活動・内容	評価の重点				おおむね満足できると判断される状況	十分満足できると判断される状況
			関	話	音	語		
1	これからの学習への見通しをもつ。	リード文を読み、扉の神や写真から「小さい」の今、これからについて考え、学習の見通しをもつ。	①				・積極的にこれからの学習に参加しようとしている。	・題材に興味をもったり、これまでの生活や学習を思い出したりしたことと自分から意見を述べ、これからの学習に意欲的に取り組むようになっている。
2	「小さいを祝おう」が実現したものの見通しをもつ。	「小さいを祝おう」を聞く計画を話し合う。 ・内容、展開などの役割を決める。 ・話し合うべき項目を出し合う。 ・項目ごとに順番に話し合っていく。	②	③			・話し合い積極的に参加しようとしている。 ・ルールを尊重して話したり、聞いたりしている。 ・共通点や相違点を考えながら話し合っている。 ・聞き手を考えながら、声の大きさ、速さを考えている。	・進行役、話し手、聞き手として、積極的に話し合っている。 ・話し合っている中、相手の発言を聞き取り、自分の発言を思い出し、自分から意見を述べ、これからの学習に意欲的に取り組むようになっている。

<評価補助簿>

単元名：○○

観点	関心・意欲・態度			表現の能力			理解の能力			言語・文化			特記事項			
	関①	関②	関③	表①	表②	表③	理①	理②	理③	言①	言②	言③				
時	4	7	9	評価	2	3	8	10	評価	1	6	11	評価	5	12	
生徒A	3	3	3	A	2	3	3	3	A	3	3	3	A	3	3	A
生徒B	2	2	2	B	1	2	1	1	C	2	1	2	B	2	2	B
生徒C	3	2	2	B	2	2	3	3	B	3	2	3	A	2	2	B
生徒D	2	2	2	B	2	3	3	3	A	3	3	2	A	3	3	A
生徒E	3	2	2	B	3	2	3	2	B	2	2	2	B	2	2	B
生徒F	3	3	3	A	2	3	2	3	B	3	2	2	B	3	2	A
生徒G	3	3	3	A	3	3	3	3	A	3	3	3	A	3	3	A
生徒H	3	2	2	B	2	2	3	3	B	3	2	3	A	2	2	B

※A4版（横）を見開きを使った形式

左側のページの例（単元の指導計画と評価計画）

< 小学校・国語科の例 >

教材名：「十歳を祝おう」（第4学年上 光村図書）									
時	ねらい	主な学習活動・内容	評価の重点					おおむね満足できると判断される状況	十分満足できると判断される状況
			関	話聞	書	読	言		
目標		国語への関心・意欲・態度	・十歳を祝う発表会の計画の話し合いに進んで参加したり、筋道立てて自分の夢や願いを伝えるスピーチをしたり、中心に気を付けて友達のスピーチを聞いたりしようとする。						
		話す・聞く能力	・自分の考えが分かるように筋道を立て、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話したり、話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめたりすることができる。 ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる。						
		言語についての知識・理解・技能	・十歳を祝う発表会の計画を話し合ったり、自分の夢をスピーチしたりする活動を通して、その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さ、丁寧さで話したり、指示語や接続語を適切に使ったりすることができる。 ・話し合いやスピーチに必要な語句を増やし、語句の性質や役割で類別があることを理解することができる。						
1	これからの学習への見通しをもつ。	リード文を読み、扉の詩や写真から「十歳」の今、これからについて考え、学習の見通しをもつ。						・積極的にこれからの学習に参加しようとしている。	・題材に興味をもったり、これまでの生活や学習を思い出したりしたことが分かる意見を述べ、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。
2～6	「十歳を祝う会」が充実したものになるように話し合う。	「十歳を祝う会」を開く計画を話し合う。 ・司会者、記録係などの役割を決める。 ・話し合うべき項目を出し合う。 ・項目ごとに順番に話し合っている。						・話し合いに積極的に参加しようとしている。 ・ルールを押さえて話したり、聞いたりしている。 ・共通点や相違点を考えながら話し合っている。 ・聞き手を考えながら、声の大きさ・速さを考えている。	・進行役、話し手、聞き手として、積極的に、取り組み、計画が充実したものになっている。 ・互いの共通点や相違点を踏まえたり、会の進行状態を意識したり、よりよく話し合いの内容をまとめたりしながら、充実した話し合いをしている。

< 中学校・英語科の例 >

単元名 Program 9 Making a Video Letter 7時間扱い								
単元目標								
1 比較表現を用いた言語活動を通して、自分なりの意見や感想を述べたり相手の意向を理解しようとするなどして、友達や先生（ALT）と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）								
2 比較表現を用いて、事実関係や自分が判断したことについて友達と問答したり、絵や表から得られた情報などを相手に正しく伝えたりすることができる。（表現の能力）								
3 比較表現を含む英語のビデオレターを視聴したり本文を読んだりして、相手が伝えたい具体的な内容や意向を理解することができる。（理解の能力）								
4 比較表現の文構造とその運用についての知識を身に付けるとともに、異文化社会における学校の様子やスポーツの違いを理解する。（言語・文化についての知識・理解）								
時	ねらい	主な言語活動	評価の重点				評価規準	
			関心意欲態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化	具体的評価規準	十分満足できる状況
1	単元全体を通してビデオを視聴し、その概要を理解することができる。	・ビデオを視聴して、教師との質疑応答をしたり、ワークシートを活用したりしながら、単元全体の概要を理解する。					・自然な口調で話される英語の概要を聞き取り、教師の質問に適切に日本語で答えることができる。	・自然な口調で話される英語の概要を聞き取り、教師の質問に適切に英語で答えることができる。
2	程度が同じである二つのものなどを同等比較を用いて話すことができる。	・ワークシートの絵や表から、程度の同じもの動詞を見つけ、同等比較の文を用いて表現する。					・与えられた情報から自分で選んで程度が同じ二つのものなどについて同等比較を用いて正確に話すことができる。	・与えられた情報以外に、自分で適切な場面や状況を考え、様々な形容詞を用いて表現することができる。
3	身近な二つのものや二人の人を比較して、「どちらがより～であるか」ということを比較級を用いて話すことができる。	・友達の生年月日、家族の年齢や持ち物などについてのインタビュー活動を行い、その結果を比較級を用いて表現する。					・指定された人数に対してインタビューを行い、比較級を用いて聞き手に正しく伝えることができる。	・1問1答の対話に終わらず、既習表現を駆使したり、その場に応じて感想を付け加えたりするなどして、会話の内容を豊かにすることができる。

・年間指導計画をコピーして貼り付けるなどの方法が考えられる。

右側ページの例（評価補助簿）

< 単元を観点別に記載する方法 >

単元名：

観点	関心・意欲・態度		表現の能力				理解の能力		言語・文化		特記事項		
	関	関	表	表	表	表	理	理	言	言			
時	4	7	総括評価				総括評価		総括評価				
生徒A	3	3	A	2	3	3	A	3	3	A	3	A	
生徒B	2	2	B	1	2	1	C	2	1	B	2	B	基本的な単語を再度復習する必要がある。
生徒C	3	2	A	2	2	3	B	3	2	A	2	B	

Aを3、Bを2、Cを1と記載してある。

A：平均2.5以上 B：1.5以上2.5未満 C：1.5未満と設定した。

- ・生徒Cの「関」と「関」の平均が2.5であり、Aが記載されている。ここでは表計算ソフトの関数を使用した。
- ・総括評価の前に列を挿入し、そこに平均（数値）を記載する方法も考えられる。

児童生徒の学習状況において、特に顕著なものや支援が必要となるものについて具体的に記述する。これらを次の単元の指導に生かすようにする。

この形式では、観点別に分類してあり、観点別の児童生徒の状況を把握したり、総括的評価をまとめたりすることが容易にできる。

< 単元を時系列で記載する方法 >

単元名：

時	1	2	3	4	5	6	7	8	総括評価				特記事項
	理解	表現	表現	関心	言語	理解	関心	表現	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化	
評価規準	理	表	表	関	言	理	関	表	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化	
生徒A	3	3	3	2	3	3	3	3	A	A	A	A	
生徒B	2	2	2	1	2	1	1	2	B	C	B	B	
生徒C	3	2	3	2	2	2	3	2	A	B	A	B	

Aを3、Bを2、Cを1と記載してある。

A：平均2.5以上 B：1.5以上2.5未満 C：1.5未満と設定した。

この形式では、指導時間順に記載することができるのが特徴である。

< 特記事項欄を多くとるために観点ごとに1ページを使用する方法 >

単元名：

観点：関心・意欲・態度

評価規準	関	関	関	関	総括評価	特記事項
	1	4	7	11		
時	1	4	7	11		
生徒A	3	3	3	3	A	ペアワークでは、つなぎ表現を用いたり、相手の話に対して反応するなどして、対話を継続しようとした。
生徒B	2	2	2	3	B	スピーチでは、進んで辞書を用いて原稿を作成したり、アイコンタクトを意識して話そうとした。
生徒C	3	2	3	3	A	

この形式では、観点別に児童生徒の状況等について、より具体的に記述しておくことが可能となる。その他の観点については次ページ以降にその欄を設ける。

学期の評価の例

学期の総括																	
観点	関心・意欲・態度			表現の能力			理解の能力			言語・文化			学期の総括評価				特記事項
	単元名												関心	表現	理解	言語	
生徒A	3	2	3	3	3	3	3	2	2	3	3	2	A	A	B	A	
生徒B	2	3	1	1	2	2	2	2	1	2	1	2	B	B	B	B	
生徒C	3	3	3	2	2	3	3	2	3	2	2	2	A	B	A	B	

- ・生徒Bの関心・意欲・態度（単元 . . . ）の平均が2.0であり、生徒Bが学期の総括として記載されている。ここでは表計算ソフトの関数を使用した。
- ・A：平均2.5以上 B：1.5以上2.5未満
C：1.5未満と設定した。

学年末の評価

- ・学年末の総括については、
 - 学期ごとの評価結果をもとに算出する方法
 - 各単元の評価結果をもとに算出する方法（各単元の学習状況をより反映させるため）
- が考えられる。

評価補助簿の形式は、この例以外にも考えられる。また、総括の評価の区切り、単元や学期・学年末における観点別評価や評定については、様々な考えや方法があり、各学校において十分検討し、工夫することが望ましい。

< 参考 >

新学習指導要領に基づく評価の在り方（小学校・中学校）

平成14年5月 栃木県教育委員会